

令和7年度 授業改善推進プラン < 理科 >

練馬区立大泉西中学校

	課題分析	授業改善策	評価
1 年	○観察・実験から得られた結果を分析する力に課題が見られる生徒が多い。 ○学習内容の定着に差がある。発展的な内容に取り組める生徒がいる。一方、基礎的な内容の定着が厳しい生徒もいる。	○結果の整理や考察を個人で考えさせた後、グループ内で共有する時間を設け、協働的な学習を行わせる。その中で、思考力や表現力を伸ばしていく。 ○授業内にて、定着度に応じて学習を進める機会を設定する。	
2 年	○理科への関心を高めるために日常生活と結びつける指導の工夫が必要である。 ○生徒が実験の目的を把握し、実験・観察に必要な機器の基本操作や技能を身に付ける指導の充実が必要である。	○実験、観察を通して、自然の事象・現象をできるだけ多く生徒に体験させる機会をつくる。 ○実験を行う前に実験の原理や操作方法を事前に調べ、実験に必要な道具も一緒に調べる活動を取り入れる。また、初めて取り扱う実験機器は扱い方を動画で視聴する。	
3 年	○班単位の実験・観察であっても、全生徒が実験の目的を理解し、探究するための実験・観察の基本操作や技能を身に付ける指導の充実が必要である。	○全生徒が積極的に実験・観察に参加できるように、生徒自身が自ら実験方法を企画したり、予め手順を確認したりするなど見通しをもたせるとともに、動画配信等を用いて繰り返し基本操作を振り返ることができるようにする。	